



ポリネコ!

『ポリネコ!』とは何か?

—背景と展開—



岩田崇 (株式会社 ハンマーバード / takashi@hammerbird.jp)

2020年6月15日



『ポリネコ！』とは、Political Needs Coordinator
国民的議論を可能にする**唯一**のコミュニケーション方法です。

国民的議論とは、

人々がデータ、ファクトなどに基づく意思表示（輿論）を相互に行い、国権の最高機関である国会議員と共に、社会的課題に向けた最適解、納得解に向けたコミュニケーションです。

民主制とは、

開かれた議論、討議の場を前提としているシステムです。
この前提が確保されない時、システムは機能不全となります。

コロナ禍で顕になった

私達の社会の現状 (大きな課題から逃げる/放置する/忘れる)

政治・行政 : 無謬性を指向する

科学者・専門家 : 失敗を前提に新たな知見をもとに
アップデートを繰り返す

社会の人々 : 安心・安全を求めてしまう

目標を共有できない社会

各位を繋ぐ『信頼/TRUST』を構築する
コミュニケーションが不可能な状態

私達の社会とコミュニケーションの性能不足による 社会的損失の一例（情緒に走り、大きな課題から逃げる/放置する/忘れる）

この性能不足の状態を脱しなければ、国が傾き社会が衰退する

これらは“開かれた議論の方法”を私達が持っていれば、回避できた可能性が高い

・ 契約書を精読、共有せずにオリンピックを推進、誘致

契約書は東京都がIOCの下請けとなる内容だったが、この「ファクト」よりも「感動」などの情緒的な面が強調され、開催決定後も「世界一カネのかからない五輪」のはずが制御できず、史上最大級の予算規模になり膨張し続けている。現在も予算全容は把握できていない。

・ 14年前に問題点を把握しつつ国産ワクチンに未対応

国産ワクチンの重要性と対応が必要なことは厚労省のワーキンググループで認識され、文書（『ワクチン産業ビジョン』2007）で公表されたいたが対策は講じられなかった。mRNAワクチンについても研究はあったものの予算がつけられず、安全保障に関わる重要課題でありながらワクチン後進国となっている。

・ 90年代に少子化を課題認識しつつも、30年に渡り対策に失敗

1970年代から少子化を予見しながら（『人口白書』）90年代迄対策を講じず、対策も散発的な取り組みに終始。データ、ファクトの収集、分析、提言を怠りその結果、生みたい人が産めない社会となっている。「未婚者の心に寄り添った調査、分析、政策提言ができていなかったのではないか」（山田昌弘2020）、産業構造、人口政策、安全保障をまたぐ戦略を構築できていない。

主権が国民にありながら、
最高権力を持つ主権者のための
コミュニケーション環境が
社会実装されていません。

この矛盾が^{①②③④}

「民主主義の危機」^{⑤⑥}となって
社会運営を困難にしています。

『ポリネコ!』はこの矛盾を^⑦
解消する仕組みです。

- ①日本型スーパーシティ、スマートシティの「新しい住民参加」を具体化できない
- ②「国民的議論」を実現できない
- ③国民-政府間に「信頼」やビジョンをつくり共有する方法がない
- ④政策形成がブラックボックス化し、最適解納得解を確立することができない
- ⑤イノベーションより誰からも怒られない縮小均衡を選びがちになる
- ⑥専制、権威主義の方が良い気がしてしまう
- ⑦コミュニケーション環境の社会実装を行います

もっと簡単に述べると、
これまでの新聞報道、テレビ番組放送
アンケート調査をいくら重ねても
“データ、ファクトに基づく意思を^①
集約し、個々人を社会につなぎ、^②
信頼をつくること”^③ができないことが
民主制の後退、国、地域の持続可能性の脆弱化^④
「民主主義の危機」^⑤を生み出しています。
この下線部を、できるようにするのが
『ポリネコ!』です。

- ①世論調査では、問われる事柄の背景を知らなくても主観や直感、先入観による回答となる
- ②記事を読む、番組を視聴するという行為の先はUXは用意されていない
- ③自分と相手が、価値を共有していることが信頼形成につながりますが、自分以外の人々や組織の考えを知るUXはない
- ④日本だけでなく、米国や欧州など世界各国共有の課題となっている
- ⑤その結果、格差の拡大や中長期の合理性戦略性よりも目先の損得を重視してしまう傾向が起きやすくなっている



社会のコミュニケーション性能を向上させるエンジン

『ポリネコ!』は、^① コミュニケーションの構造的弱点を克服し、
社会や地域の持続的経営に不可欠な
データやファクトに基づく信頼^②を
特許取得の独自プロセス^③によって醸成できる
新しいコミュニケーションインフラです。

1. コミュニケーションの構造的弱点とは？

2. データやファクトに基づく信頼が重要で必要である理由

3. 特許取得の独自プロセスとは？



1.

コミュニケーションの構造的弱点とは？

現代のコミュニケーション構造に起因する弱点①

気分と主観で意思表示できる世論

-データやファクトを踏まない意思表示が重視される環境

・世論と輿論

メディア各社が頻繁に調査を行う

背景や関連する事象を
知らなくても主観と感覚で意思表示できる

世論

popular
sentiment
民衆感情

調査がない

背景や関連する事象を
知った上で客観性をもって意思表示できる

輿論

public
opinion
熟慮した意見

現代のコミュニケーション構造に起因する弱点②

分散・希薄化するメディア接触環境

- マスメディア、ローカルメディアの機能不全
- 継続的に考える機会の喪失

・現在のメディア接触環境

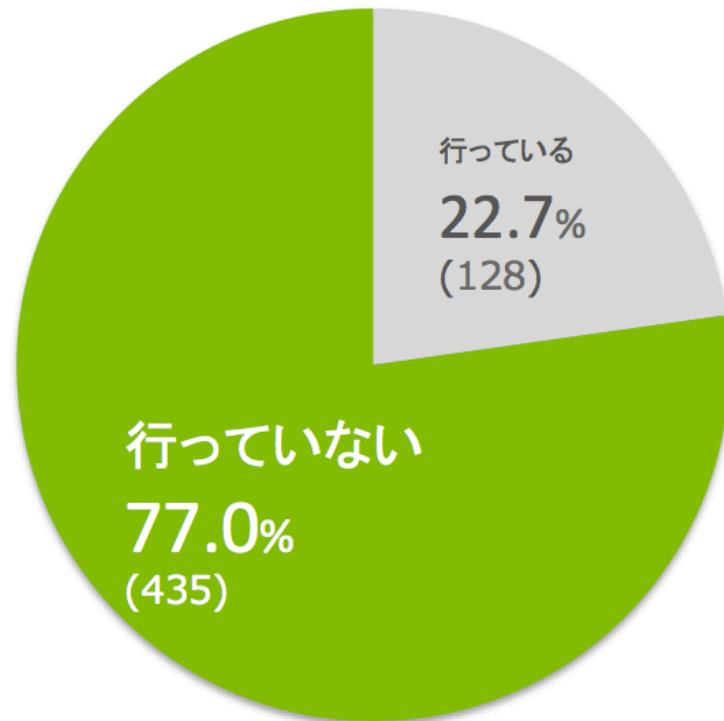


自治体コミュニケーションの課題 -コミュニケーション軽視と機能不全

やりっ放しで、若年層の声を聞かない

約8割の自治体が広報広聴の 効果検証をしていない

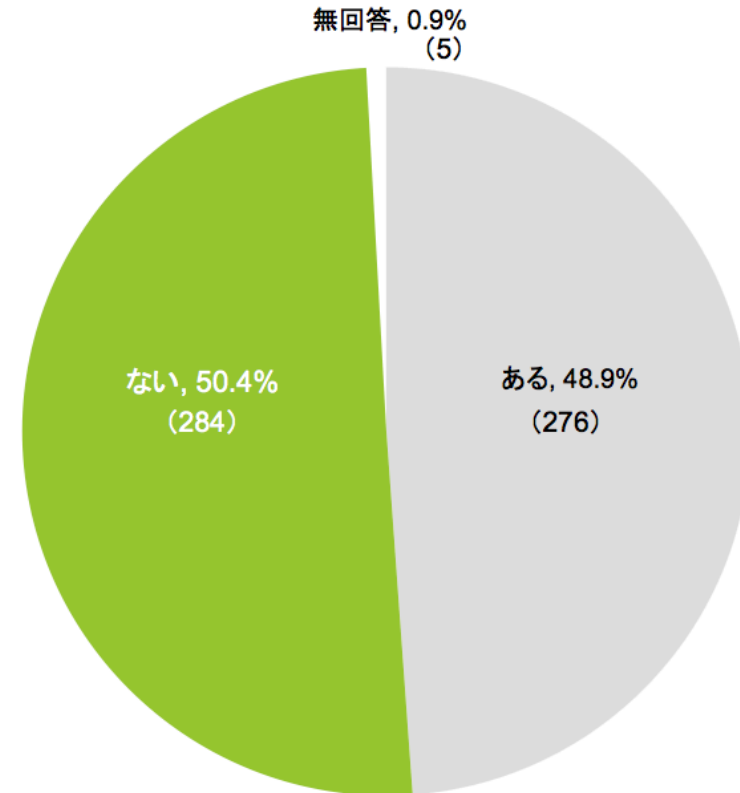
広報・公聴の効果測定を行っていますか。



- ・効果検証しても非公開であったり、効果検証の内容が課題認識が曖昧なこともあり。

半数以上の自治体が 若者の声を聞いていない

選挙権を持たない18歳未満の住民の地域経営、
政策形成への参加、意見表出の場はありますか。



- ・「ある」場合でも、予定調和な機会を以て「ある」としているケースも少なくない。

『自治体コミュニケーションの未来を展望する調査2019』より
デロイトトーマツコンサルティング、岩田崇共同調査

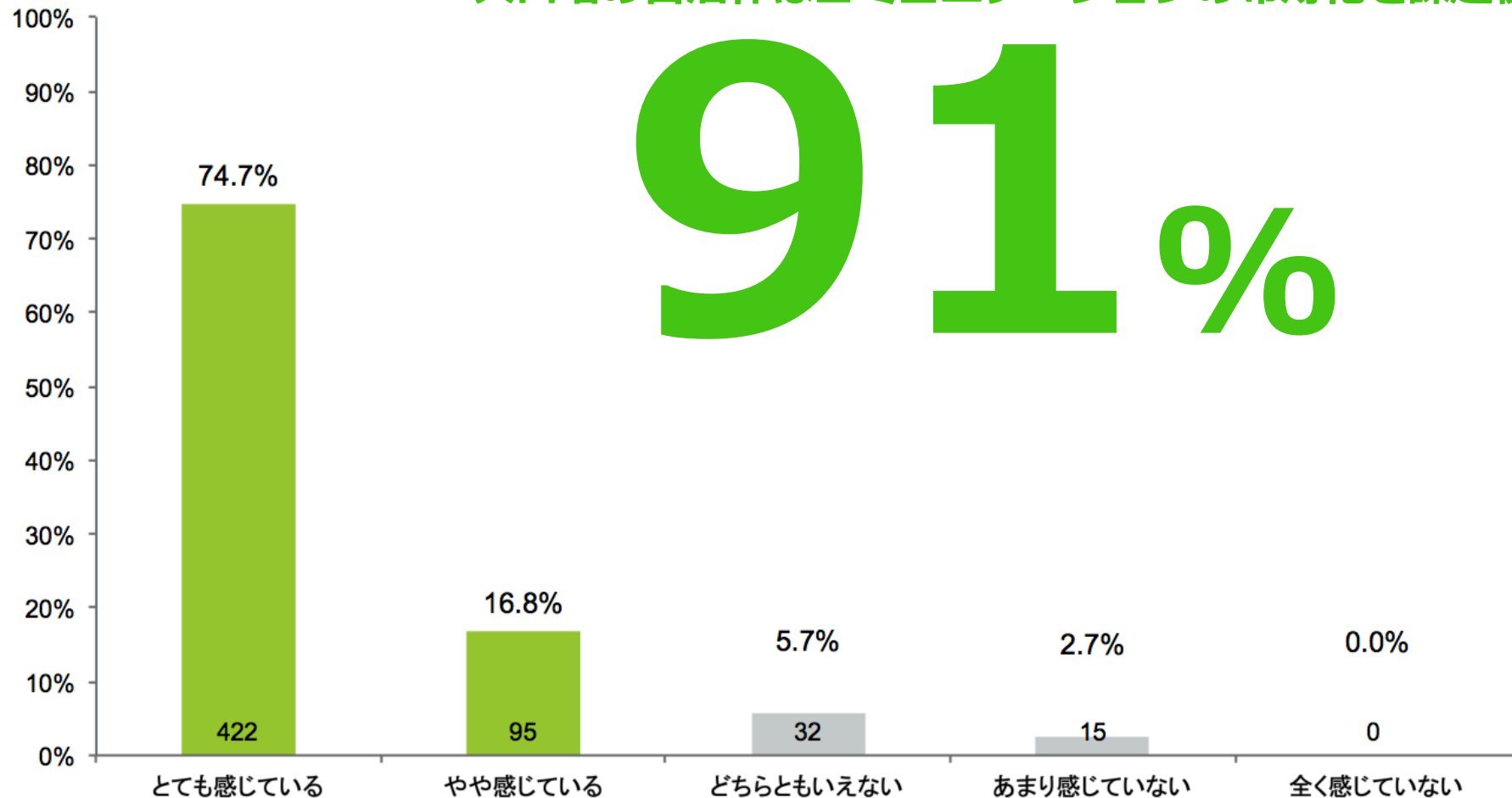
© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

自治体コミュニケーションの課題 -コミュニケーション軽視と機能不全

そして、人口流出（地域衰退）が課題に・・・

人口流出について課題を感じていますか？

約9割超の自治体が人口流出を課題視
人口増の自治体はコミュニケーションの希薄化を課題視



『自治体コミュニケーションの未来を展望する調査2019』より
デロイトトーマツコンサルティング、岩田崇共同調査

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021 / takashi@hammerbird.jp

現代のコミュニケーション構造に起因する弱点③

情報の流れが一方通行 \Rightarrow であること

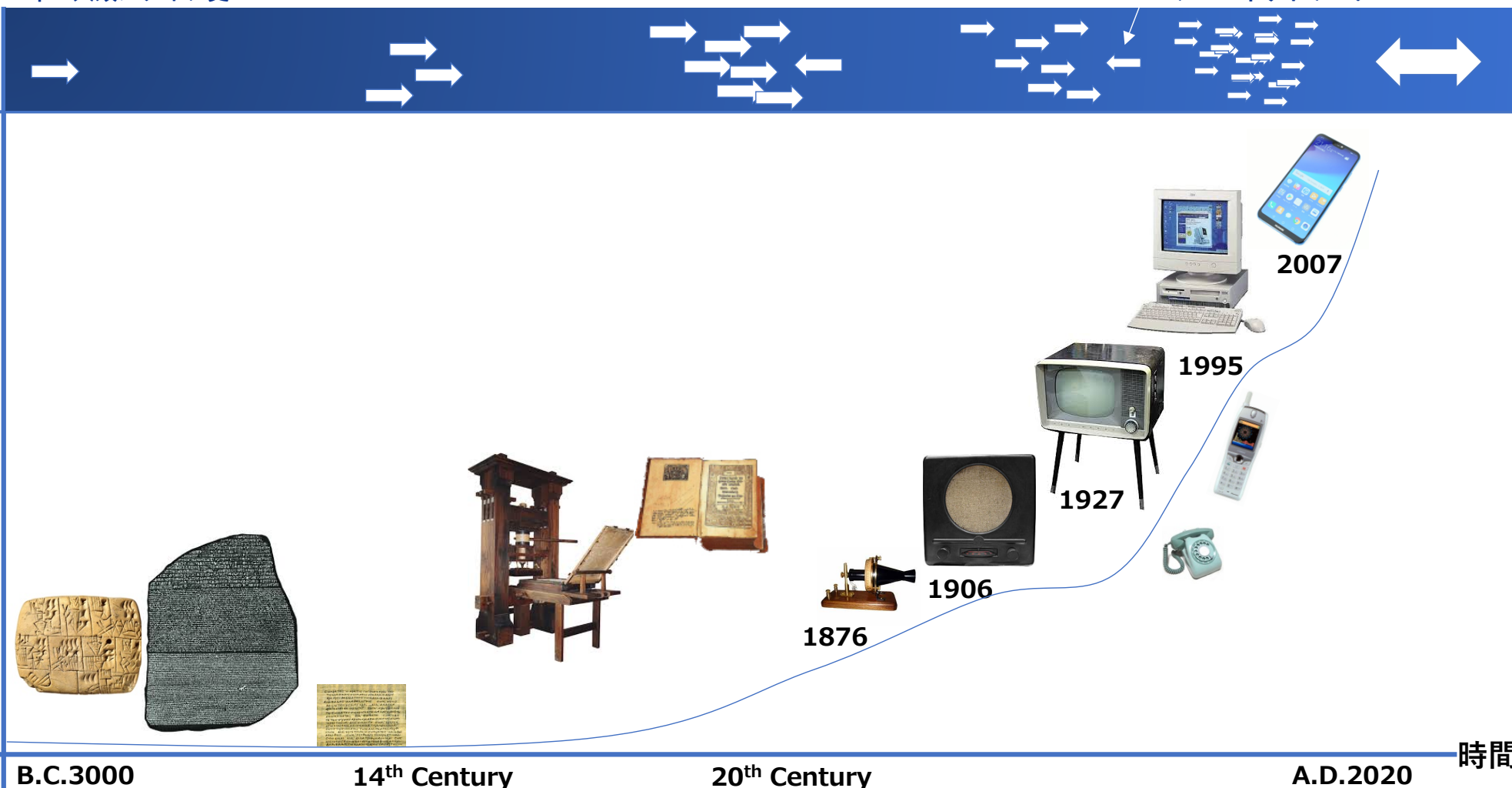
- フィードバックのないコミュニケーション (やりっぱなし)
- 量で誤魔化せる

・ 5000年の人類メディア史

・ パソコンネットワーク

情報の
構造

情報量

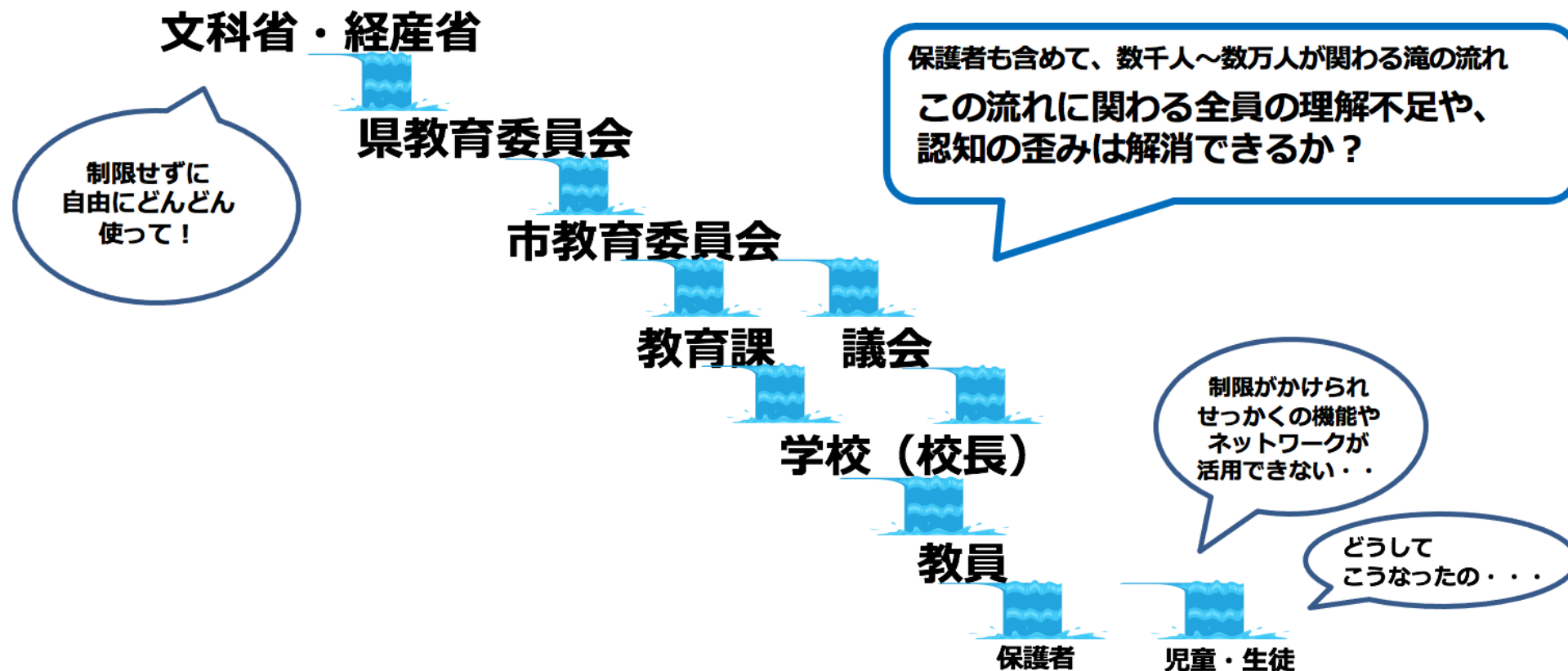


『信頼』を構築できない滝型構造

カスケード

- 認知バイアスと無責任を生み出す合理的な構造
- 立場の上下が重視されてしまう

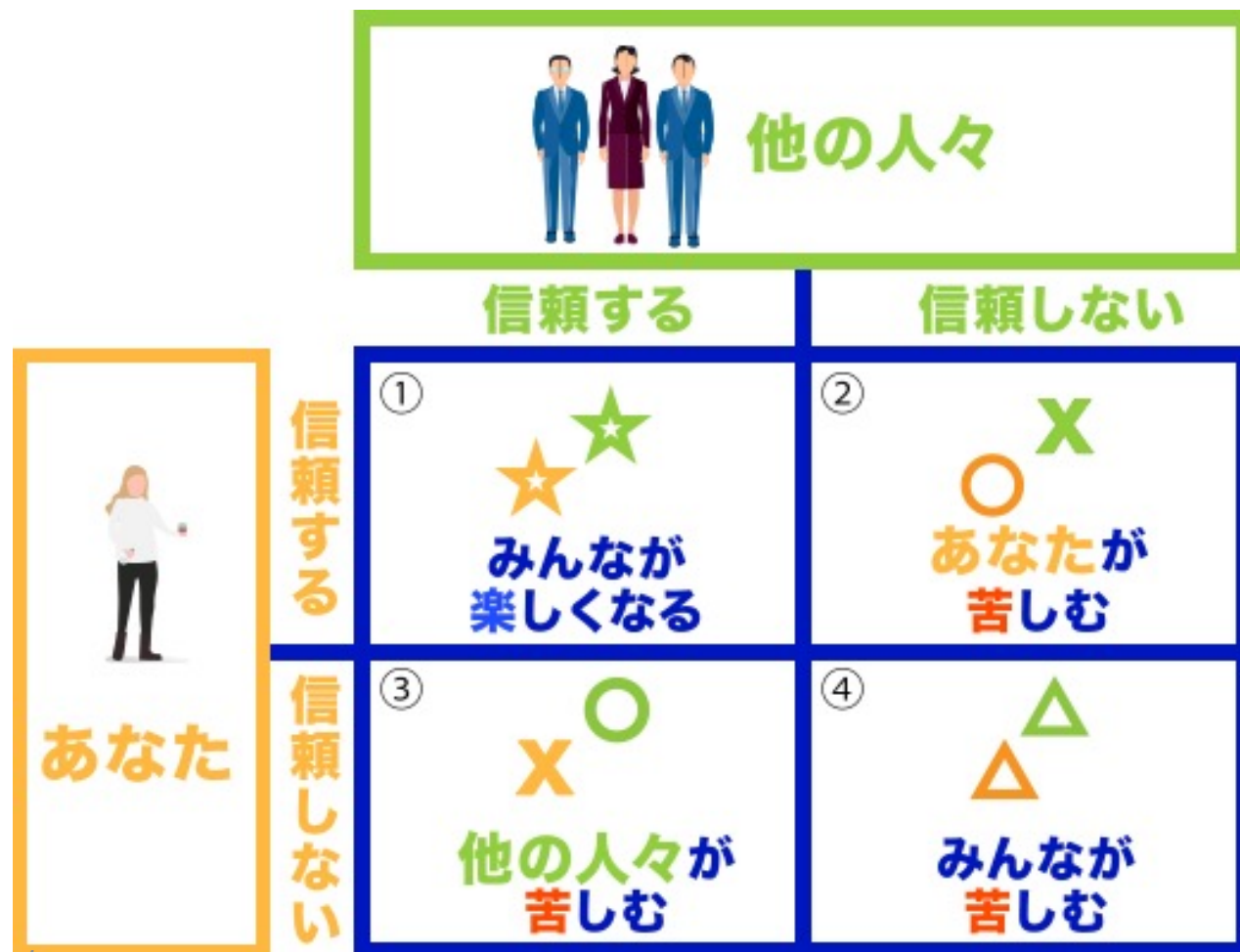
・行政の滝型構造（教育、GIGAスクールの場合）



『信頼』を構築できない囚人のジレンマ構造

- 協調のための手段、お互いの考えを知る方法がない
- 自分が損をしないために、合理的に④を選択する

・囚人のジレンマ図



- ①：協調して「最適解」を選ぶ
- ②③：正直者がバカを見る
：はしごを外される
- ④：「苦しくなること」を合理的に選ぶ

言葉が通じない

- 同じ言葉、単語でも捉えられ方は異なる-認知バイアス
- 捉えられ方を把握し、調整する仕組みがない

・通じているようで通じない私たち

たとえば

GIGAスクール

Global and Innovation
Gateway for All

個別最適な学びの
環境の実現



政策立案、発信者

通信量！
スマホ学割
PCやiPadのこと？



教員、保護者、児童・生徒
行政職員、メディア関係者

*教員の方でもGIGAの意味を知らない
ことは珍しくありません。

弥縫策が繰り返される悪循環構造

パッチワーク

国権の最高機関

- どんな知見、報道が現れても社会・国会に共有されない
- 全体より、一部の支持を集めることが合理的（無関心層の発生）
- 「芯」=コンセプト、ビジョンのなく、未来に進めない環境

・2010年代以降のメディアコミュニケーションフロー



現代のコミュニケーション構造に起因する7つの弱点 まとめ

①



主観、感情に基づく意思が世論、民意

②



継続的に考える機会が（ほぼ）ない

③



フィードバックのない情報の流れ

④



上下関係、認知バイアスに影響される滝型構造

⑤



誰がどんな考えかわからない

⑥



言葉の捉え方を把握し調整できない
認知バイアスの放置

⑦



パッチワークが繰り返される悪循環

現代のコミュニケーションには
**データ・ファクトに
基づき意思を示し合い
議論を行う機能が
不足している**

熱心な取材や紙面、番組、
webコンテンツを重ねても
不足した機能を補えない



**『信頼』をつくり
共有することが
できない
-社会の劣化-**

現代のコミュニケーション構造に起因する弱点

まとめ

戦争に進んだ80年前と変わらずデータとファクトを踏まえた
-国民的議論、地域を挙げた議論を行う手段を持っていない。



~2021

前が見えない
バックミラー社会

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021

2.

データやファクトに基づく『信頼』が
重要で必要である理由

データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由

信頼がなぜ重要か？

TRUST
信頼

人の能力が最大限に発揮されやすくなる

中長期の視点に基づく投資、政策、施策を行いやすくなる

自分以外の他者を考えられるようになる（思いやり）

新しい技術、表現などイノベーションが起きやすくなる

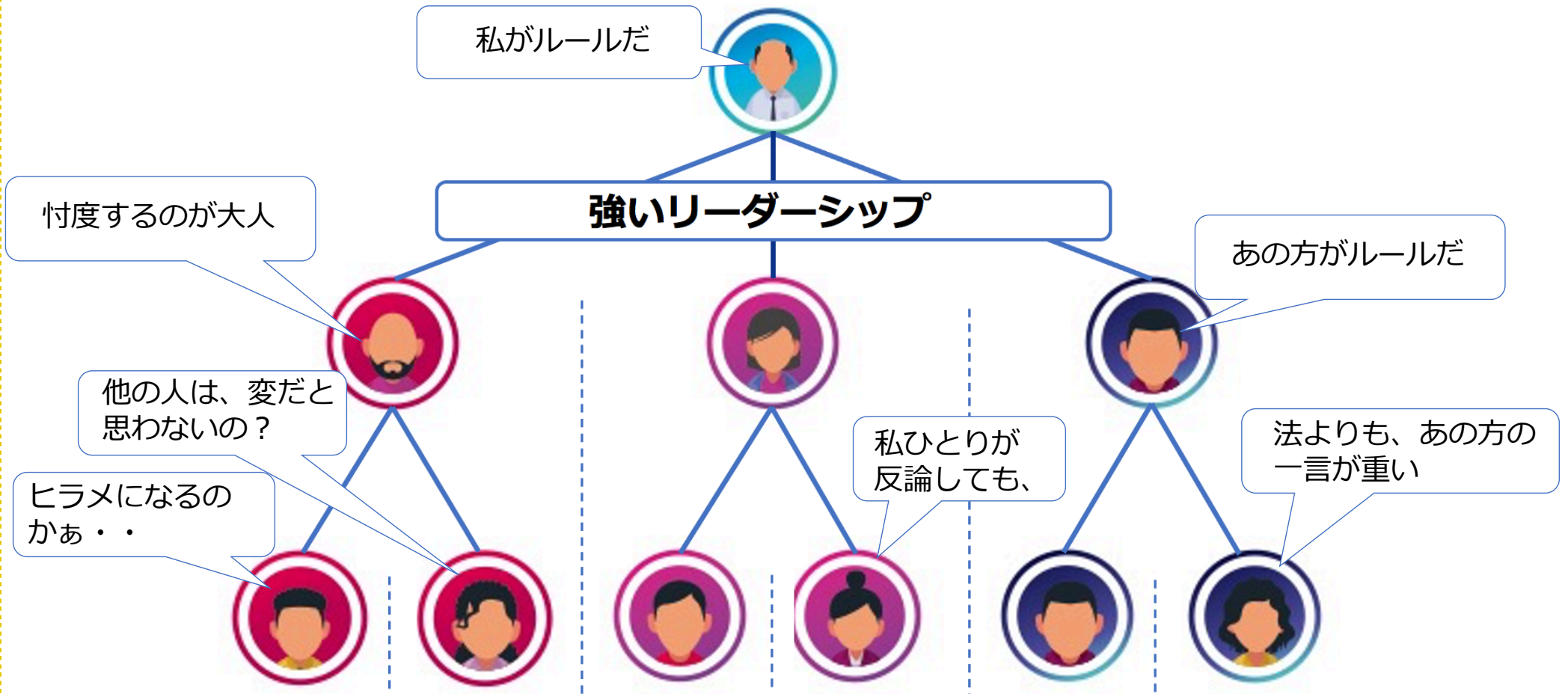
緊急事態に利己的な行動が抑止され、全体最適を実現しやすくなる

データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由

属人的統治の限界

リーダーシップ

強いリーダーシップ（カリスマ）は権力の集中による強力なマネジメントが可能ですが組織コミュニティ内に信頼関係が生まれにくく、忖度を生み、人々の思考を停滞させ、イノベーションも阻害されるリスクがあります。



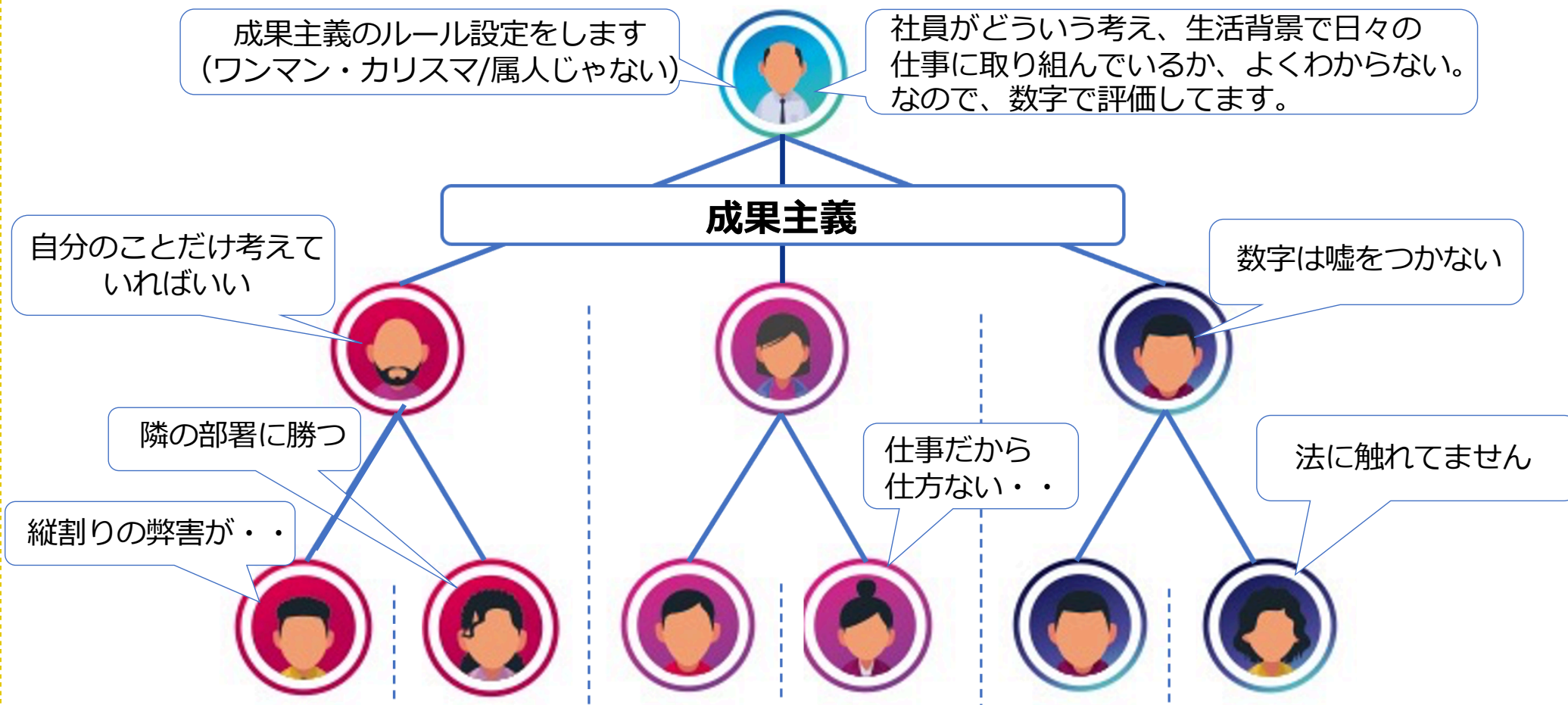
データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由

数値やデータによる統治の限界

成果主義

一方、数値やデータを重視するマネジメントでは、属人的経営の弊害はなくなるものの、目先の数値やデータに人間が従属することで信頼関係が生まれにくく、人々の思考停止、イノベーション阻害のリスクが生じます。

(数値の基準を決めるプロセスに新たな属人的弊害が生じることもあります。)

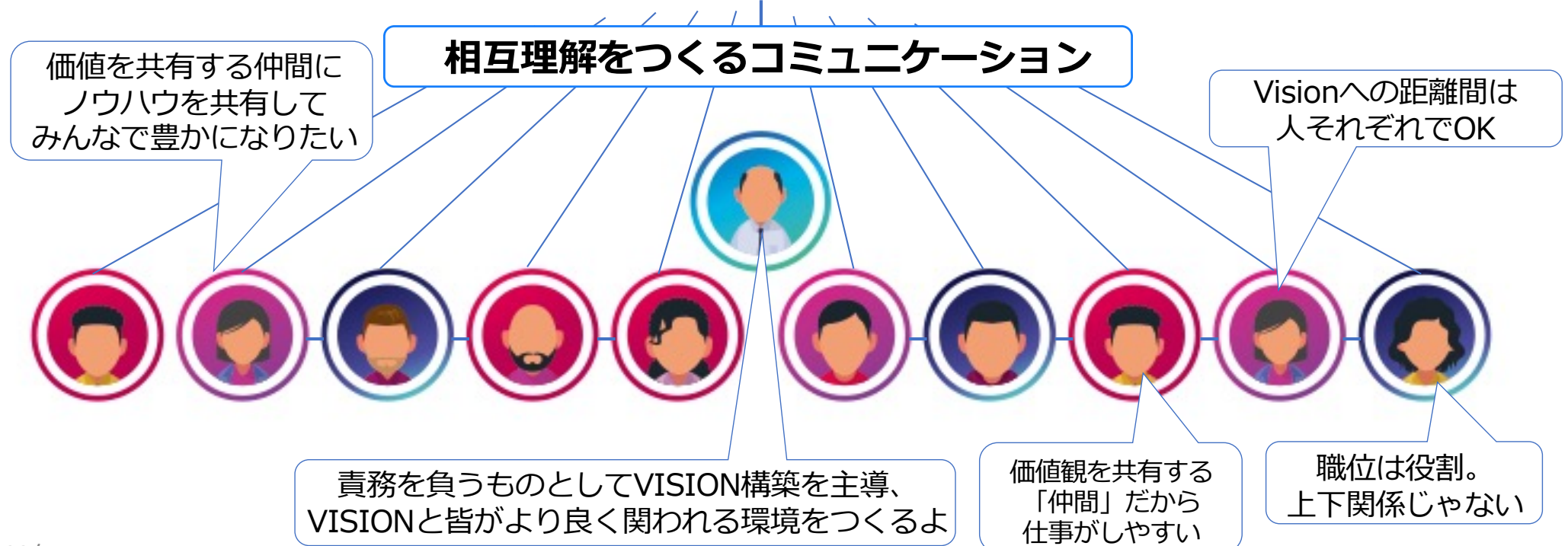


データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由 属人的統治、数値やデータ経営の統治を超える 信頼共有型統治-VISOIN DRIVE-

データやファクトを踏まえながらどう暮らしたいか？という意思表示に基づき価値観の共有、把握ができると『信頼』に基づく社会、コミュニティのガバナンスが実現できます。信頼を基礎として、思考の活性化、イノベーションが促されます。
(同時に属人的経営や成果主義の弊害を最小化)

VISOIN

共通の価値観に基づく目標=信頼



データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由

価値観の共有による信頼/VISIONはあった？

議論せずとも

焼け野原という共通体験と、豊かになるという共通ビジョンが「信頼」として機能した



データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由 信頼の重要性

「信頼」を形成、運用できずに、失敗を重ねてきた歴史

1762

フランス革命期における
人民主権の発見・発明



基本的人権、国民主権という発明

日本における普通選挙のある社会運営の開始

1928

第1回普通選挙
「一等難しい宿題」
柳田國男



社会運営の失敗。

1945

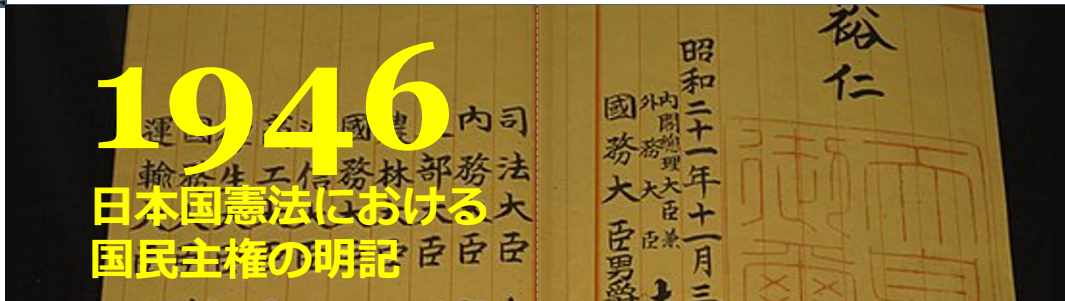
無条件降伏



国民主権が明記された日本の誕生

1946

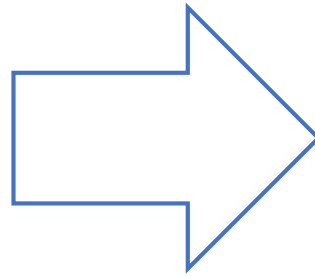
日本国憲法における
国民主権の明記



データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由 いままで信頼をつくれなかった理由

分散、拡大した主権を繋ぐ仕組みのデザインが必要だが、対応する存在、機関がない
この仕組みのデザインがないと・・・民主制であっても属人的、忖度の権威主義に

主権
1名・独占所有



国民主権
数千万から億人・分散所有



データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由 いままで信頼をつくれなかった理由

- 同じ国、同じ言語に暮らしていても「壁」が各所に存在する。
- 「壁」を超えること = 信頼をつくる仕組みのデザイン



社会にビジョンが共有されない
政治-国民間で『信頼』が育まれない

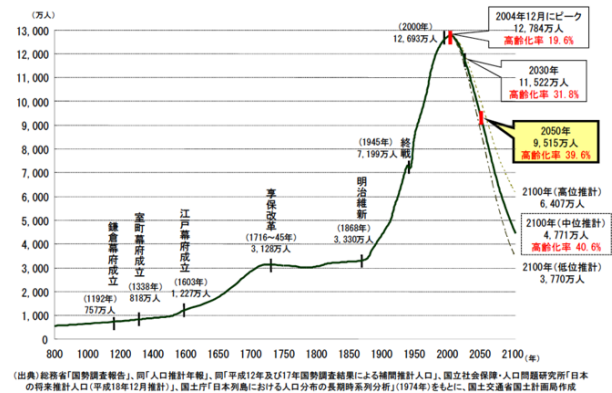
データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由

信頼が最も必要な歴史的局面-2021年からの数年-

- 精緻な社会運営には『信頼』の確立と共有が極めて重要
- しかし、『信頼』をつくる手段は脆弱な状態

日本社会の状況

- ・有史以来初めての急激な人口減少局面への対応
- ・データやファクトに基づく精緻な議論と信頼できる最適解の共有が必要



政府が目指す社会

- ・経済発展と社会課題解決の両立する人間中心の社会



Society 5.0
DX対応

デジタルトランスフォーメーション

地方に求められる地域経営

- ・削る = 合理化、改革の限界
- ・持続できる地域のためには、住民と行政との『信頼』が不可欠
- ・住民との信頼をもとに未来に向けた投資的取り組みが可能に

これからの地域経営の考え方

地域の持続可能性には、コミュニケーションが重要

【コミュニケーション】
住民の理解、納得、参画
職員の理解、納得、参画

(アウトプット)
得られる効果

地方自治法
第2条14項
地方公共団体は、その事務を処理するに当っては、住民の福祉の増進に努めるとともに、最小の経費で最大の効果を挙げるようにしなければならない

投入する資源
(インプット)
人件費の削減
事業費の削減
労働時間の削減など

持続可能性
(信頼)
民主的にして
能率的な行政の確保
(地方自治法 第1条の2)

【行政改革】

GIGAスクール

(Global and Innovation Gateway for All) × 個別最適な学び × 持続可能な社会の創り手をつくる教育体制 (学習指導要綱)

DFFT (Data Free Flow with Trust (信頼ある自由なデータ流通))



SDGs (誰ひとり取り残さない社会を目指すコンセプト群)

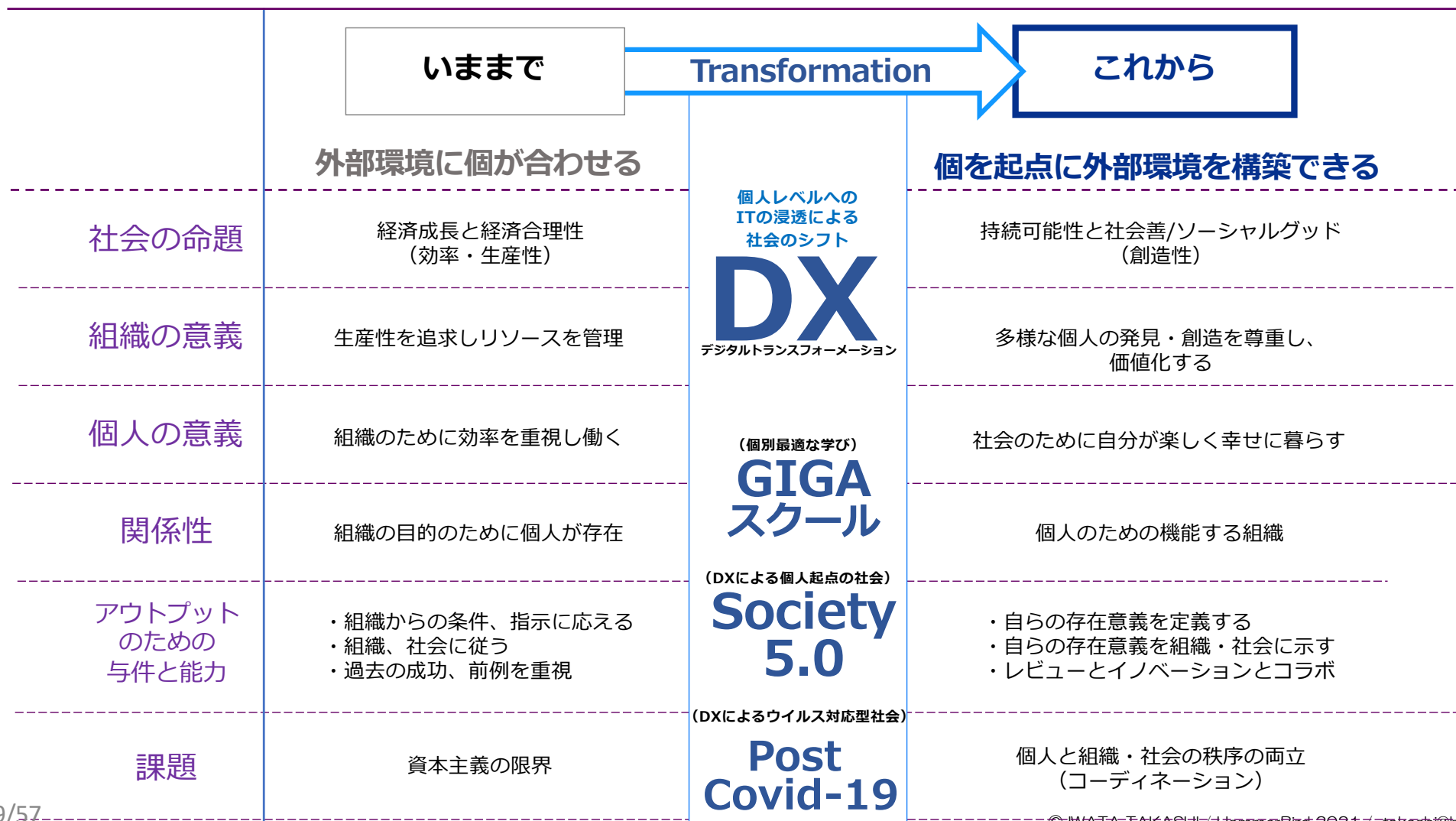
データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由

DXの基礎は『信頼』

デジタル社会

DX=個を起点とする生活環境への変化(トランスフォーメーション)

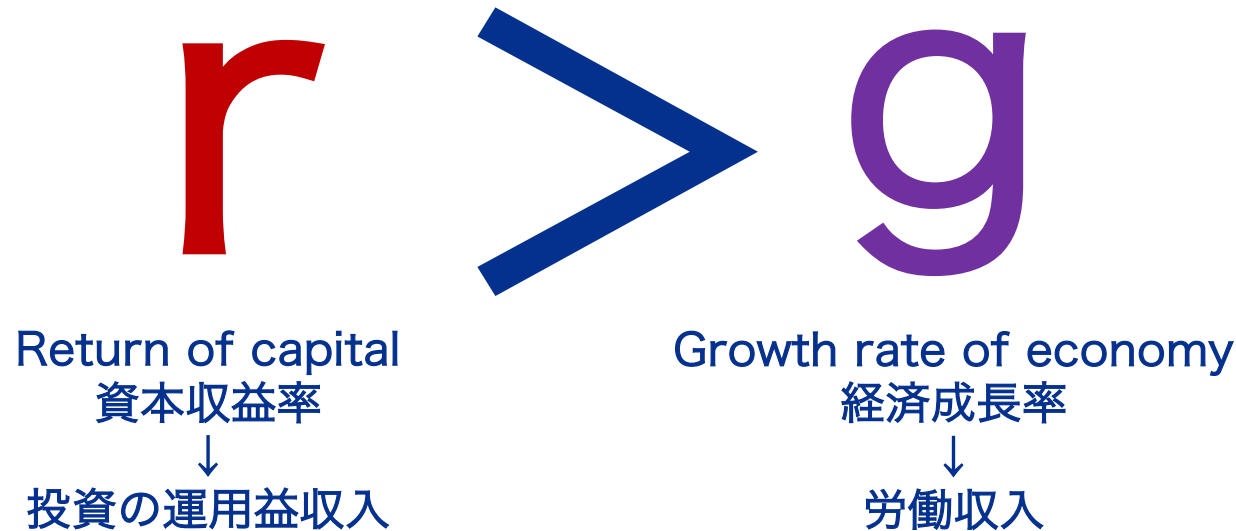
DXの本質的な意義と価値は、個を起点にする環境構築ができるほどにICTが社会に浸透したことによる基本的な人権の社会実装にあります。事務や手続きの効率化、迅速化はその表層パートであり、自治体DXのコアは、コミュニケーションの最適化による住民間、住民-行政間の『信頼』(TRUST)の構築にあります。



データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由

資本主義システムからの『信頼』の重要性

- 富の偏在による格差が自然と起こることによるシステムの限界
- アダム・スミスも人と人の共感を重視していた（但し、神の手を過信してしまっていた）
- 市場の失敗を乗り越えるための公共の介入には信頼の裏付けが有効



『21世紀の資本』 Thomas piketty 2014

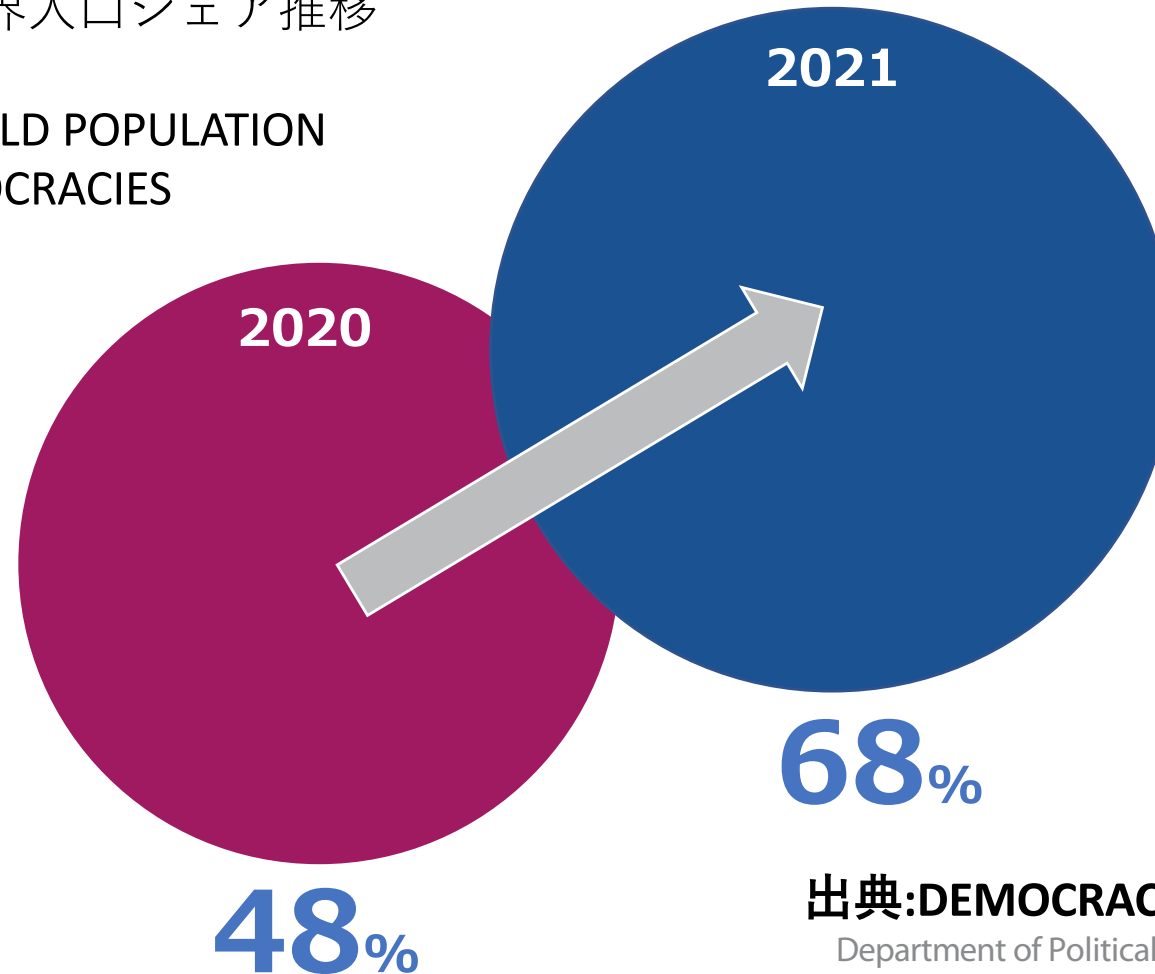
経済成長率が下がると格差が広がり、社会が不安定に、
不安定状態を回避する調整システム/コミュニケーションによる信頼構築が必要。
しかし、対応できる方法はない

データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由 地政学的観点からの『信頼』の重要性

- 専制体制の社会、そこに暮らす人が世界全体では増えている
- 専制体制は、民主制社会がうまく行っていないことを指摘して優位性を誇る

専制体制の世界人口シェア推移

SHARE OF WORLD POPULATION
LIVING IN AUTOCRACIES



出典: DEMOCRACY REPORT 2021

Department of Political Science
University of Gothenburg

<https://www.democracywithouthorders.org/>
© IWA F A FAKASHI / Hammer Bird 2021 / takashi@hammerbird.jp

データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由
まとめ

-Building "TRUST"-

『信頼』づくりは、
日本の命運を左右する。

3. 特許取得の独自プロセスとは？

特許取得の独自プロセスとは？

いまのコミュニケーションの弱点を克服する

①



データ・ファクトを踏まえた意思=輿論を調査

②



継続的に考える機会

③



フィードバックのある情報の流れ

④



上下関係、認知バイアスに対応する水平構造

⑤



誰がどんな考えかわかる

⑥



言葉の捉え方を把握し調整できる

認知バイアスの把握・調整

⑦



パッチワークが繰り返される悪循環の外部に

データ・ファクトに基づき意思を示し合い
議論を行う仕組み

熱心な取材や紙面制作、
番組制作、webコンテンツ開発と
ポリネコ！が連携すれば新しい価値に



ポリネコ!



『信頼』をつくり
共有することが
できる

特許取得の独自プロセスとは？

信頼構築モデル

-信頼を規定する成分から考える

-最も有効なのは・・・

-SVSモデルによる信頼形成を実現できるUX、メディアはあるか？ -無いからつくる

【信頼を規定する成分】

1.能力認知

有能、専門技術、権威など
(スゴそう)

2.動機づけ認知

努力している、熱心だ、誠実さ

3.価値共有認知

同じ目線に立っている、気持ちを共有している
何を重視するか一致しているか
どのような結果を選好しているかが同じか

主要価値類似性(SVS)モデル (Earle & Cvetkovich, 1995)

『信頼』

特許取得の独自プロセスとは？

『ポリネコ！』の仕組み

立場の上下なく、国民と政治家や有識者が一緒に
水平な関係で、社会や地域の課題に関わるデータや
ファクトを知り、学び、考え、意思表示し合うこと
で信頼を構築しながら繋がり、フィードバックを
俯瞰しながら最適解、納得解を見出し、共有する、
特許に基づくコミュニケーション。

SVSモデルによるTRUST構築

SDM (Shared Decision Making) モデル

特許取得の独自プロセスとは？ 風通しをよくする

- 各所の「壁」に穴をあけて風通しをよくする。
- 「壁」を超えること＝信頼をつくる仕組みのデザイン
- 滝型から水平型構造のコミュニケーションへのシフト



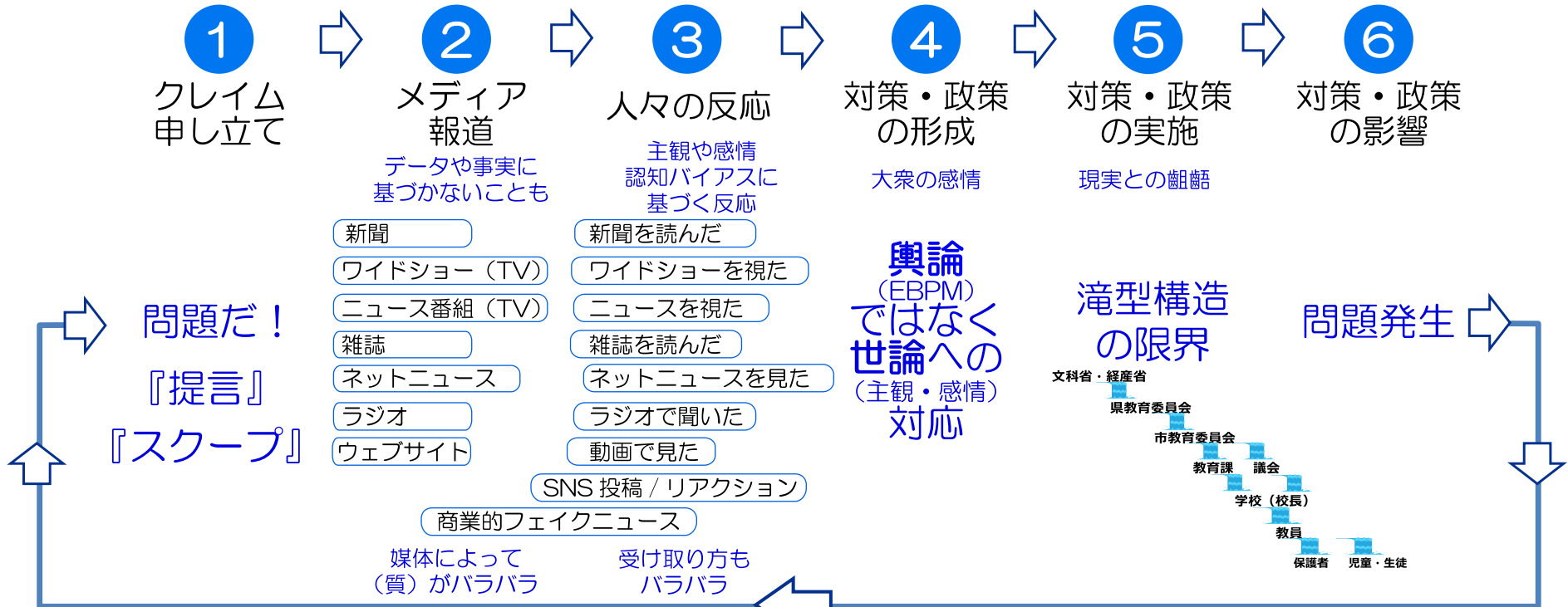
社会にビジョンが共有される
政治-国民間で『信頼』が育まれる

特許取得の独自プロセスで実現すること

現在の構造に別レイヤー・バイパスを設ける

- 政策決定者（国会議員、地域の議員）とつながるコミュニケーション
- 『信頼』をつくるガバメント・リーチの実現
- 全体にとっての最適解、納得解を考える手段と動機の提供

・2021年以降に求められるバイパス付きメディアコミュニケーションフロー



ステップ 1
知り
学ぶ
考える

記事や動画を見て、知る、学ぶ

・記事を読む、動画を視聴する

①

知り、学び、考え
意思表示しあって、
共有する。

Polineco!

これから社会をつくるための
メディア＝「ポリネコ！」

「ポリネコリ」
をはじめ

②

Polineco!

NEW- 新着

回答受付中 取材中 過去のテーマ

インタビュー
総監督の考える日本のこれから

統計データ
人口の持続可能性を示すデータ

分析データ

③

Polineco!

総監督の考える日本のこれから

サンプルテキスト、サンプルテキスト
僕の場合は作品を世に出すことで、「ニュータイプを出す」という具体的な命題があったんだけど、それに挫折して敗北してしまっただけです。現実問題として、ニュータイプを世に出すことはできなかったことは、現代の政治を見て感じます。

それは、僕がやろうとしたニュータイプにさせるような教育みたいなのをできなかったのが悪いという言い方もできます。

人をニュータイプにさせることはできなかった、ごめんなさいと。

Polineco!

④

Polineco!

これから日本がどんな国、社会を目指すといいのでしょうか？
データやファクトを参照しながら、
世代や立場を超えて
考えを表示しあって、「豊かさ」の
「次」を見出しましょう。

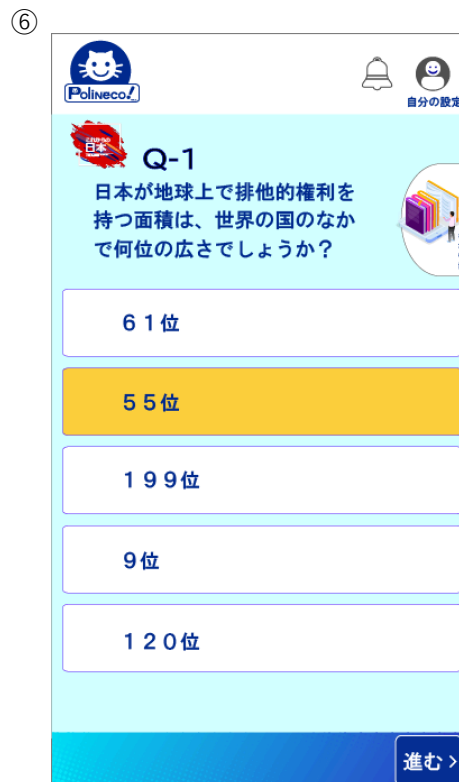
Polineco! スタート ▶

* 社会や地域に関わる論考や、トピックスを記事や動画で紹介
* 読んだり、視たりするなかで、上記のネコのマークを押すと、
回答参加画面に移動

* 回答参加画面

ステップ 1
知り
学ぶ
考える

回答を通じて、知る、学び、考える



・ 正解のある設問

- * 設問は「正解のある設問」と「正解のない設問」の2種類
- * 「正解のある設問」は学習プロセスを通じて、認知の把握と調整を行います
- * GIGAスクールの意味や、ウイルスの特徴（生物ではないなど）さまざまな事象の知っているつもりで知らないを解きほぐします

特許取得の独自プロセスとは？

ステップ 1
知り
学ぶ
考える

回答を通じて、知る、学び、考える

⑧

Polineco 通知 自分設定

Q-1
日本が地球上で排他的権利を持つ面積は、世界の国のなかで何位の広さでしょうか？

199位

55位

9位

120位

61位

進む >

⑨

Polineco 通知 自分設定

Q-2
あなたは、これからの日本社会が最も重要視するとよいものは、何であると考えますか？

個人の自立

強い政治権力

お金の獲得

未来へのビジョン

特になし (なにも重要視しない)

上記以外を重要視する

< 戻る

進む >

⑩

Polineco 通知 自分設定

Q-2
「特になし (なにも重要視しない)」を選択した場合、日本社会は、米国や中国など国外の要因に翻弄されることや、国際社会での存在感の低下、重要なことを自分自身で決定できないことによる弊害の発生も可能性として懸念されます。

選択を決定しますか？

選択する (次に進む)

選択をやり直す (一つ前にもどる)

< 戻る

進む >

・ 正解のない設問

* 学習プロセスを経て、「55位」ではない選択ができるようになります。

* データやファクトを踏まえた意思表示を行います

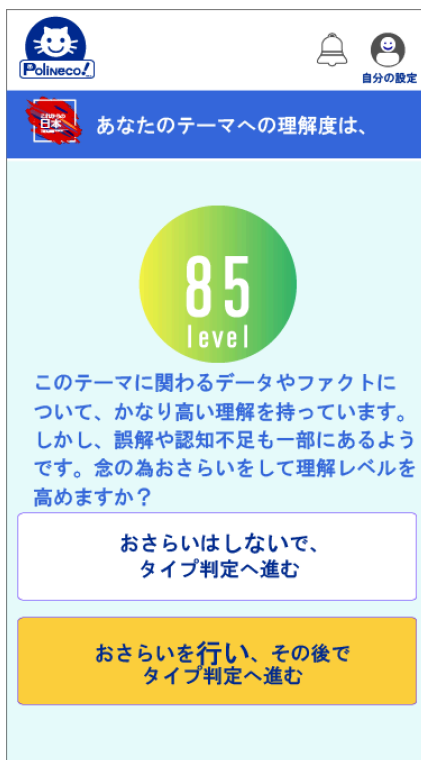
* 選択から予期されるリスクなども示し、考えた上での意思表示が行えます

特許取得の独自プロセスとは？

ステップ 1
知り
学ぶ
考える

回答を通じて、知る、学び、考える

⑪



- ・ 正誤に応じた再回答（おさらい）
- ・ 誤解、認知不足がどこにあるかの把握
- ・ 理解度ごとの回答者クラスター
- ・ 回答クラスターごとの回答傾向把握
- ・ 傾向に応じた追加設問の設定

* 地域や社会の課題に係る理解度を、「正解のある設問」の正答率から表示

* おさらい機能で、理解度を高めることができます

ステップ 2
意思表示
する

回答を通じて、意思表示する



- 理解度×「考えタイプ」表示
- 言葉、文章の投稿が可能

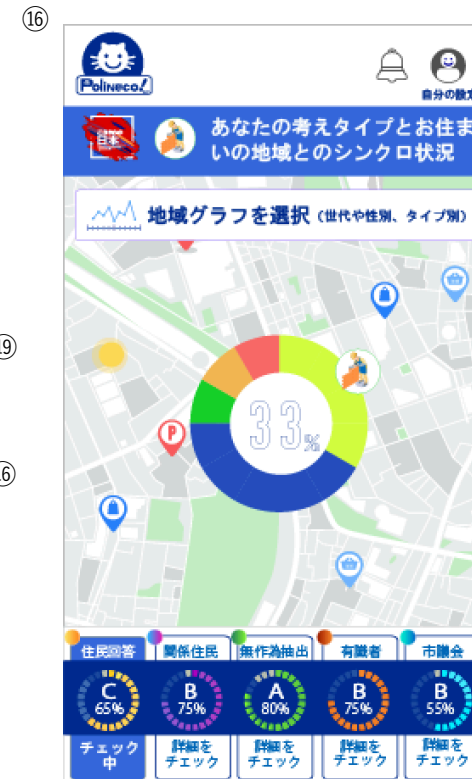
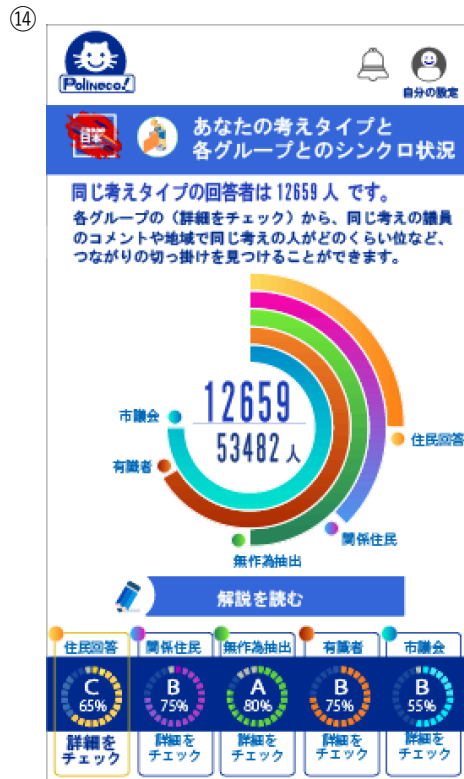
⑭

- * 回答者の考えタイプを、地域や社会の課題への考え方、向き合い方を「正解のない設問」への回答に基づき表示
- * ポジティブ面、ネガティブ面の両方を示し、再回答でもできるようにします

特許取得の独自プロセスとは？

ステップ 3
つながる

他の回答者につながる



・地域コミュニティ
町内会単位など

- * 自分の考えタイプと同じ考えの人が、各回答者のグループにどの位いるかをグラフで表示
- * "詳細をチェック"から、同じ考えの人の割合、他の考えの人の割合をグラフで表示
- * グラフはリアルタイムに変化

ステップ 3
つながる

他の回答者につながる



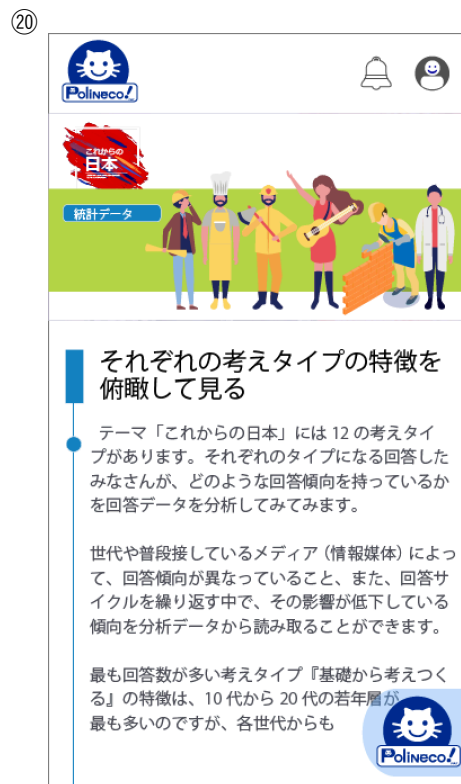
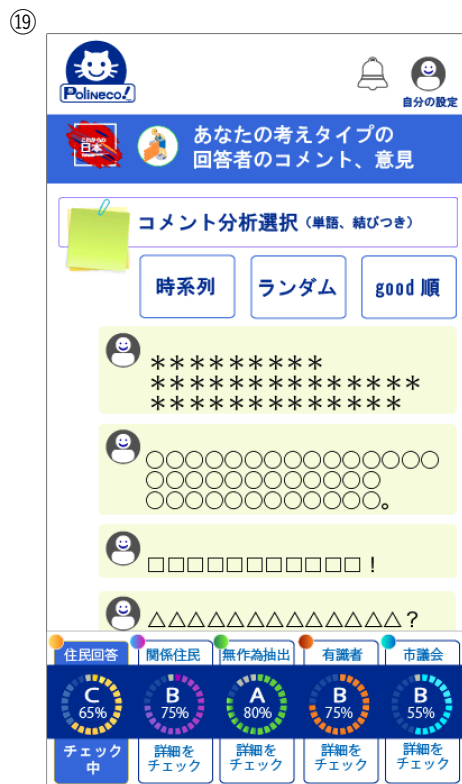
* 議会とのシンクロ状況を表示

* 自分と同じ考えの議員及びその回答背景を読むことができます

* 同じ考え以外にも、自分とは異なる各考えタイプの議員や、政党、会派別の傾向、シンクロ状況を確認できます。

ステップ 4
俯瞰する

回答の背景、傾向を俯瞰する



- 考えタイプのそれぞれのコメント、意見及びその集約分析を読むことで回答を俯瞰

- * 画面⑬に入力された考えタイプの背景など、回答者のコメントを確認することができます
- * テキストマイニングを行い、言葉の関わり、傾向の表示も可能

ステップ 5
行動する

回答を経て、行動する



- ・ 課題別に議員とつながる
- ・ コメントの投げかけなど
- ・ 読んで、サポート
- ・ 読まれ方の分析から改善へ

* 考えタイプが同じ人とは、価値共有認知でつながっている状態になります

* この繋がりから、議員との交流、サポートを行えるようになります

* 議員にとっても国民（小中高生も含め）にとっても、政策ごとの信頼関係を構築することができるようになります。

ステップ 5
行動する

回答を経て、行動する

調査テーマについての
意思形成、合意形成を実現



メール配信
プッシュ通知

* 回答タイプや属性
(学生のみ、子育て世帯のみなど) に
応じたメール送信

- 回答サイクルの運用
- 考えタイプごとに設問を配信も

ステップ 1
知り
学ぶ
考える

* 回答によるインセンティブを提供できます（地域の場合は商工課などと連携）
* また、回答参加を経て、無回答の議員への回答リクエスト、友人、知人への招待発行を行えます。

* 回答は一回で終わりではありません
* 回答サイクルが動き出し、考えタイプごとの設問配信、回答収集などを経て最適解、納得解の形成をすすめます

特許取得の独自プロセスとは？

回答サイクルによる意思形成、成長する議論の基礎

- フィードバックのある、やりっぱなしにしないコミュニケーションサイクル
- 社会のビジョン構築にも対応できる継続的コミュニケーション
- 運営者（コントローラー）が明確であることによる、訂正の確実性

・『ポリネコ！』 5つのステップ

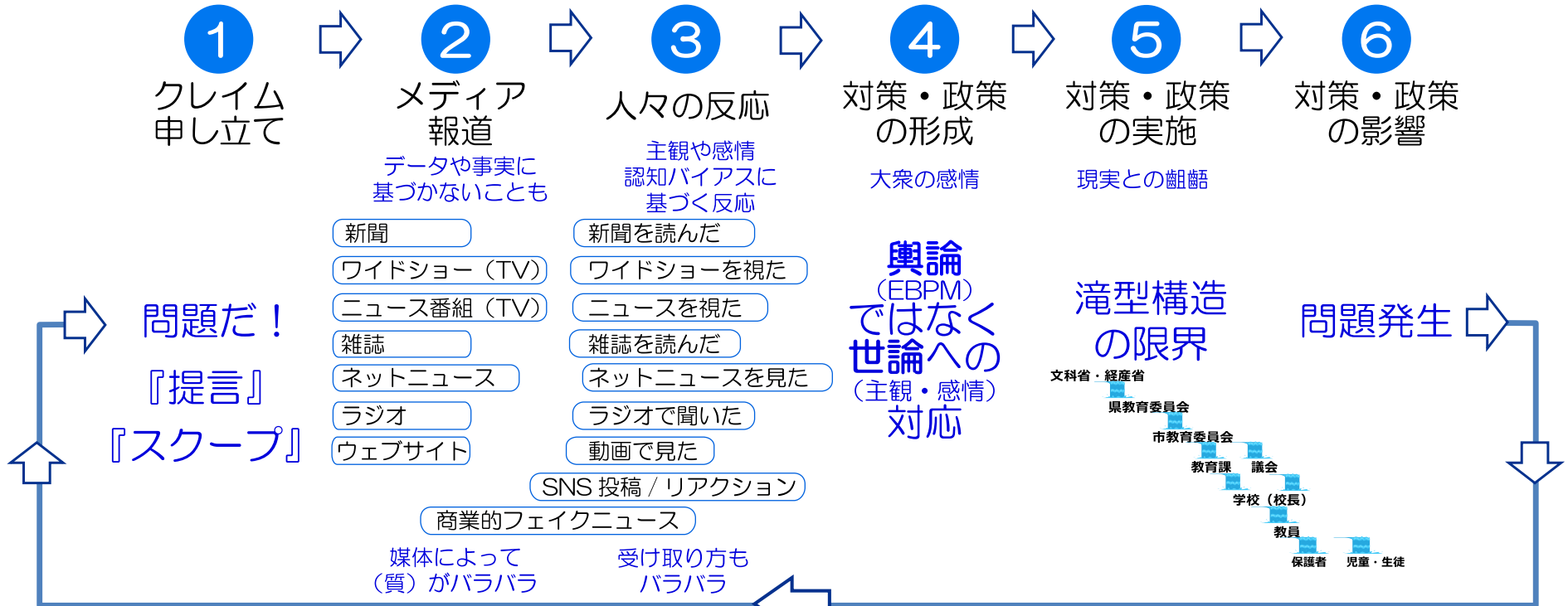


特許取得の独自プロセスで実現すること

現在の構造に別レイヤー・バイパスを設ける

- 政策決定者（国会議員、地域の議員）とつながるコミュニケーション
- 『信頼』をつくるガバメント・リーチの実現
- 全体にとっての最適解、納得解を考える手段と動機の提供

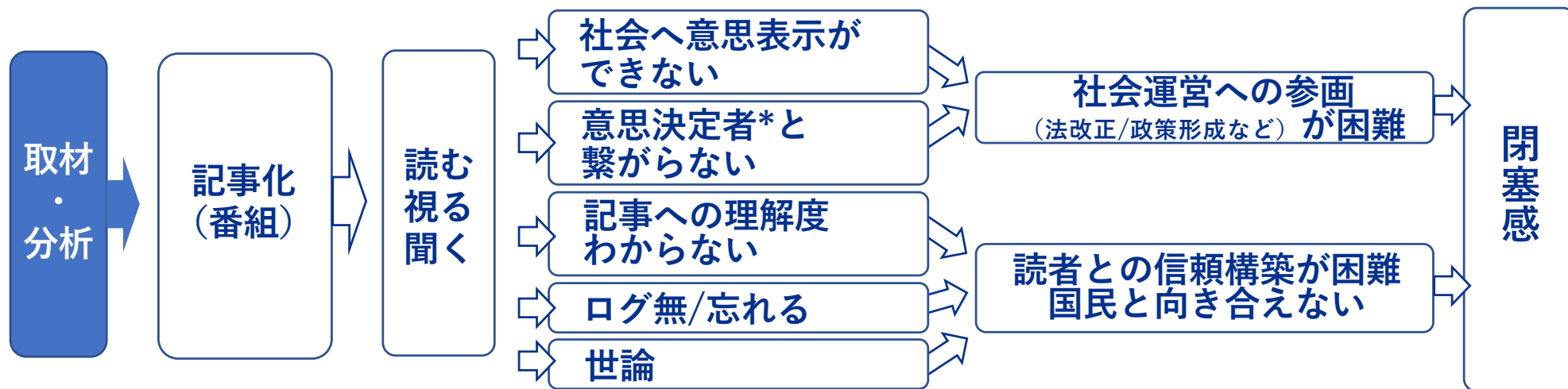
・2021年以降の求められるバイパス付きメディアコミュニケーションフロー



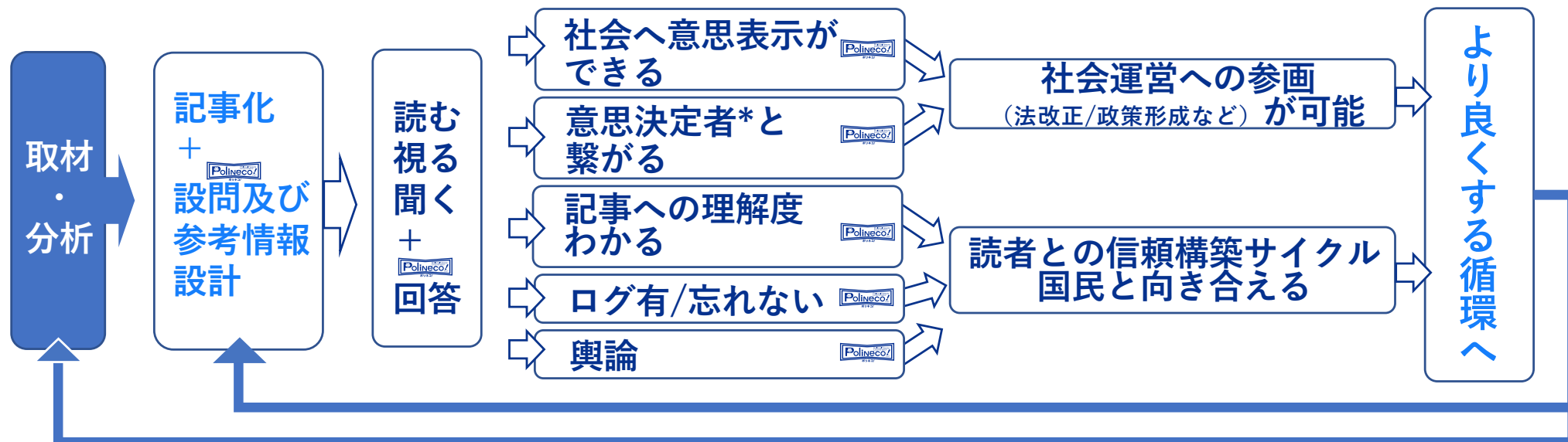
特許取得の独自プロセスで実現すること

従来メディア型アーキテクチャとの比較

● 従来メディア型のUXフロー/アーキテクチャー



● ポリネコ！型のUXフロー/アーキテクチャー





ポリネコ!

『ポリネコ!』は、
新聞、テレビの機能拡張、
地方自治体におけるコミュニケーション再構築、
中央省庁が主導する政策形成・運用のための
コミュニケーション、
企業やNPOによるオープンロビイング、
新しいニュースサービスなど
個人と社会、地域をつなぎ
信頼に基づく最適解をつくることが
求められる各分野での活用が想定できます。

- ①新聞、テレビの機能拡張『ポリネコ!』に活用することで、記事や番組から政策形成、社会に繋がるUXと価値を提供
- ②自治体DXに不可欠なコミュニケーションのDXを『ポリネコ!』で具体化できます、同時に、日本型のスーパーシティ、スマートシティの「新しい住民参加」を具体化
- ③政府による『信頼』形成のコミュニケーションを『ポリネコ!』で実現可能
GIGAスクールの実装、エネルギーや漁業など国民的議論、アジャイルガバナンスが求められる政策課題に対応
- ④社会的意義のある事柄についての輿論形成を企業やNPOの提起から『ポリネコ!』で実現
- ⑤データ、ファクトを踏まえた輿論をもとに、政治家と一緒に課題解決、ビジョン形成等に参画できるニュースサービス

特許取得の独自プロセスで実現すること 活用領域、テーマ



教育行政

自治体、地域経営

社会保障

エネルギー政策

漁業、林業、農業政策

データ・プライバシー

デジタルガバナンス

社会全体のビジョン

『ポリネコ!』で実現すること まとめ



2021~

1億総
ドライバー社会
(国民主権の実装)

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021



デジタル環境が前提となる**これからの社会**では、
政府という存在は、遠くにある批判や監視すべき対象から、
私達自身と繋がり協調し上手に使う道具となり得ます。

そのためには、ひとりひとりがデータやファクトに基づく
思考と意思表示を行い『信頼/TRUST』の構築に向け、
相互参照を行うコミュニケーション=国民的議論が不可欠です。

『**ポリネコ!**』は、
国民的議論を可能にする**唯一**のコミュニケーション方法です。



岩田崇
株式会社 ハンマーバード / takashi@hammerbird.jp
慶應義塾大学SFC研究所 上席所員